

第7回「胃と腸」賞贈呈式開催さる



第7回「胃と腸」賞の贈呈式が去る6月16日夜、早期胃癌研究会会場（エーザイ本社5階ホール）で行われました。今回は次の論文に贈られました。

「原発性の空・回腸腫瘍の病理－肉眼形態と組織像の対比」

渡辺英伸・岩淵三哉・岩下明德・城戸英希

（「胃と腸」16巻9号：943～957頁）

贈呈式は、6月度例会幹事の内田隆也先生（日本医大・第3内科）の司会で進められました。まず、芦澤真六先生（東京医大・内科）より賞状・賞牌・賞金が贈られ（写真上）、そのあと、中嶋義麿先生（まろ病院長、写真中央右）が祝辞を述べられました。中嶋先生は、“臨床と病理を結び付ける努力をしてこられた渡辺先生が、関心の高まりつつある小腸腫瘍の領域で、本賞を贈られたのは誠に時宜を得たもの”とお祝いの言葉を述べられました。最後に、渡辺先生（写真下）は、“一貫して消化管病理の仕事をしてきたが、この関連の受賞で嬉しい。八尾恒良先生はじめ多くの先生方に助けてもらったお蔭だが、今後とも研鑽を積み生きた臨床病理学を築きたい”と抱負を述べられ、式は終わりました。

